

2022年度 事業計画

「リーダーシップの共立」
学校法人 共立女子学園

[目 次]

1. 2022年度 事業計画について	1
I. 共立女子大学・短期大学	1
I-1. 学生確保	1
I-2. 教育の質	3
I-3. 学生生活	6
I-4. 学修支援・授業支援	8
I-5. 就業力	10
I-6. 地域連携	12
I-7. 教学マネジメント	14
II. 共立女子中学高等学校	15
II-1. 生徒確保	15
II-2. 教育の質	16
II-3. 教育力	18
II-4. 進路	19
II-5. 管理運営	20
III. 共立女子第二中学校高等学校	21
III-1. 生徒確保	21
III-2. 教育の質	23
III-3. 教育力	25
III-4. 進路	26
III-5. 管理運営	27
IV. 共立大日坂幼稚園	28
IV-1. 園児確保	28
IV-2. 教育の質	29
IV-3. 教育力	29
IV-4. 保護者との連携・協力	30
IV-5. 管理運営	30
V. 共立女子学園	31
V-1. 財政	31
V-2. 人事	32
V-3. 施設設備	34
V-4. 櫻友会・後援会・地域等との連携	35
2. 2022年度予算の概要	36
(1) 2022年度予算編成方針	36
(2) 資金収支予算(表1)	36
(3) 事業活動収支予算(表2)	36
(4) 中期計画予算(表3)	36

1. 2022年度 事業計画について

I. 共立女子大学・短期大学

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

I-1. 学生確保

目標

アドミッション・ポリシーに則して、戦略的な広報や入試制度改革等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議 全学アドミッション委員会 全学広報委員会	主となる事務局 入試課、大学企画課
---------------------------------------	----------------------

2022年度 事業計画

【評価指標①】共立女子大学・短期大学について、入学定員を確保する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・適正に入学定員を確保する。	・各学部の特性に合った試験別募集人員を設定し、各入試において入学者数を確保する。

【評価指標②】一般入試の延べ志願者数で、共立女子大学は7,000人以上、共立女子短期大学は600人以上を目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2022年度の年間実接触者数を42,800人以上とし、2023年度一般入試の延べ志願者数で、共立女子大学は7,000人以上、共立女子短期大学は600人以上を達成する。	・デジタルと対面の両面から受験生にアプローチする広報施策を立案・実行する。大学・短期大学の代表動画の制作とそれを拡散するWEB広告を開始する。 ・オープンキャンパスを年間8回開催する。
・建築・デザイン学部は、家政学部建築・デザイン学科2019～2021年度入試志願者の平均値(493名)の110%増(542名)にする。	・建築・デザイン学部に対する広報施策を立案・実行する。 ・特設ページの設置や進学サイト・雑誌などへの掲載等を行う。

【評価指標③】2021年度入試からの新基準に沿った新入試制度を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2024年度入試制度を策定する。	・入試開発検討会を中心に、本学のアドミッション・ポリシーに基づいた入試制度を検討する。
・2025年度入試制度について、変更点を予告する。	・入試開発検討委員会において、2025年度入試からの試験科目と問題構成についての方向性を検討する。

【評価指標④】アドミッション・オフィサー(専任職員)が、入試・学生募集に参画する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・アドミッション・オフィサーが、入試の審査に参画する。	・多面的評価を実施する年内入試において、学部の面接審査・グループディスカッション・書類審査にアドミッション・オフィサーが参加する。

【評価指標⑤】入学者選抜において、多面的・総合的に評価を行う組織(アドミッション・オフィス)の設置を検討する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・入試開発検討会が中心となり、書類審査・面接などの審査における問題点を整理し、適切な実施方法・ガイドラインを構築する。	・外部講師による研修会を実施するなどして、コンピテンシー面接等の審査方法を模索する。

【評価指標⑥】 併設校との連携を強化し併設校からの入学率の増加を目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 共立女子高等学校からの入学率を 16.1%以上とする。 ・ 共立女子第二高等学校からの入学率を 47.0%で維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 併設校進路指導教員と連携し、2021年度に実施した施策の検証を行った上で、入学率増加に繋がる施策を立案・実行する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 併設校からの入学者の志願度向上の為、以下施策の参加率を 2021年度対比 110%とする。 ○KWU 高大連携プログラムの実施 ○授業見学会 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年度の実施結果を踏まえ、併設校進路指導教員と連携し、内容の更なる改善を行う。

【評価指標⑦】 共立女子大学大学院について、入学定員の確保を目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年度入学者数を、2021年度入試（13名）対比で増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2021年度に実施した施策の検証を行った上で、施策の改善や追加を行う。 ・ 共立女子大学から共立女子大学大学院への進学における入学金免除やティーチング・アシスタント制度（以下、TA制度）について、広報を行う。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

I-2. 教育の質

目標

カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容と方法を整備・充実させ、学生の付加価値を最大化させる。

主となる委員会・会議
全学教学改革推進委員会
全学FD委員会

主となる事務局
大学企画課、教務課、教育学术推進課

2022年度 事業計画

(1) 【教育組織】

【評価指標①】2020年4月にビジネス学部を新設する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・引き続き適正に設置計画を実行する。	・ビジネス学部、全学教育推進センターおよび事務局が連携し、アクティブ・ラーニングのサポート等、授業形態に合わせた授業支援、学修支援を行う。 ・ラーニング・アシスタント制度がリーダーシップの体系的な教育として機能しているかを評価する。

【評価指標②】2023年4月の建築・デザイン学部新設に向けて、適切に準備する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2023年4月の建築・デザイン学部新設に向けて、適切に準備する。	・人材養成目的、3つのポリシー、カリキュラム、教育内容・方法、教員組織等を整え、設置届出書類を遺漏なく提出する。 ・学生募集広報等を積極的に進め、アドミッション・ポリシーに基づく適切な入学試験を実施し、学生を確保する。

(2) 【教育内容】

【評価指標①】既設学部・科の教育課程の変更を行い、カリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに則して、体系的・構造的な教育課程を編成する。合わせて、学修成果の検証サイクルを確立する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2024年度からの教育課程編成に向けて、現在の学修成果を検証した上で、検証結果を踏まえた制度を策定する。	・3つのポリシー、カリキュラムツリー、カリキュラムマップ、履修系統図、科目ナンバリング、履修モデル等を活用したカリキュラム・マネジメントを確立する。

【評価指標②】グローバル社会で必要となる英語によるコミュニケーション能力を高めるために、体系的・構造的な教育課程を編成する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2023年度に教養教育科目（全学共通教育）における英語教育プログラムのスムーズな開講を目指す。	・新たな英語教育プログラムの開講に伴い、各学部・科の教養教育科目（全学共通教育）における卒業要件を2022年6月までに決定する。 ・外部試験等、成績評価資料なども含め、科目概要等を作成する。

【評価指標③】教育課程の変更にあわせ、2020年度までに文芸学部のコースの見直しを行う。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2020年度からのカリキュラムを円滑に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの点検・評価を行い、階梯性を踏まえた履修モデルを作成する。 オープンキャンパスの実施形態に即した新たな広報媒体の配信・配布を行う。

【評価指標④】教育課程の変更にあわせ、国際学部のコースの適切性、GSEプログラムの点検・評価を行い、充実方策を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 英語特別演習Ⅴを全員が3年次に履修する。また、国際専門演習および英語特別演習Ⅴ (Academic Writing) の受講生の80%以上がB以上の到達目標を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語特別演習Ⅴを国際専門演習と連動させるとともに、GSEプログラムの全受講者がTOEIC Writing試験を受験し、結果の点検・評価を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 1年次GSEプログラムの定員は80名とし、3・4年次時点での継続率を概ね50% (40名程度) とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国際専門演習4クラス体制 (定員40名) について、今後の継続率の見通しを分析し、3年次継続率の妥当性を評価する。 留学奨励について当面は現実的な目標を模索する。
<ul style="list-style-type: none"> GSEプログラム全参加者が英語での卒業研究を提出し、80%以上がB以上の到達目標を達成する。 TOEIC Writing 試験受験者の9段階中の7 (海外出張レベル) 以上の割合を50%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 2年次GSEプログラム参加者全員を対象とした外部英語検定試験を前期に実施する。 外部英語検定試験の結果や、学修成果申告の回答を踏まえて、GSEプログラムの指標を更新する。
<ul style="list-style-type: none"> English-Speaking TAの活動に対するアンケートの回答が非常に満足または概ね満足が70%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> TA候補となる留学生に対する新型コロナウイルス感染症の影響を確認しながら、再開を目指す。 GSE学修カウンセリングについての今後のあり方を検討する。

【評価指標⑤】看護学部について、2019年度に保健師養成課程を導入する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 保健師養成課程カリキュラムを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1期生の保健所実習を確実に実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 1期生卒業にあたり、全国平均と同等以上の国家試験合格率を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師課程1期生の国家試験対策として、対策講座、模試を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 保健師課程1期生卒業にあたり、保健師就職を5名以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健師課程1期生の希望に沿った就職が実現するよう就職支援を行う。特に、新卒で保健師就職を希望する学生には個別の就職支援を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 保健師課程に続く看護学部の魅力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 看護学部の新しい魅力となる資格取得コース設置を検討する。

【評価指標⑥】学生の精神的自立・職業的自立・社会的自立の基盤となる能力を養成するために、2020年度に新しい教養教育の教育課程を編成する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 新カリキュラムの円滑な運用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> データサイエンスの基礎科目の適切性を検証し、2023年度より学修効果を高められるよう検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 全学副専攻制度により修得できる「副専攻 (Leadership)」の周知、運用を行い、卒業時にディプロマ・サブリメントのデータをダウンロードした割合を60%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学副専攻制度の申込を年2回の運用とする。 全学副専攻制度の申込要件を達成している学生を抽出し、kyonetの掲示で制度の有効性を説明すると同時に申し込みを促す。

【評価指標⑦】教育課程の変更にあたり、授業科目の精選・科目選択の幅の見直しを行う。既設学部・科の専門科目のコマ数を2017年度比で300コマ削減する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2023年度開講時に既設学部・科の専門科目のコマ数を2017年度比で300コマ削減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各科目の履修者数を検証、学部・科の開講科目を精査、僅少科目の基準の見直しをする。

【評価指標⑧】 KWU ビジョンの達成を目指し、学外組織との連携による課題解決型アクティブ・ラーニング授業を全学生に提供する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・教養教育科目（全学共通教育）において全学的な課題解決型アクティブ・ラーニング授業を学生に提供する。	・情報リテラシー科目で企業等と連携した課題解決型アクティブ・ラーニング授業を開講する。 ・ラーニング・アシスタントの体制の構築・運用による授業支援、学習支援を行う。
・社会連携に関わる課題解決型アクティブ・ラーニング授業を学生に提供する。	・社会連携センターにおいて企業等と連携した課題解決型アクティブ・ラーニング授業を実施する。

(3) 【教育方法・学修成果】

【評価指標①】 学生の卒業時の学修成果の質を保証するための仕組みを整備する。特に、学生ポートフォリオの導入と GPA の活用は必須の検討項目とする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・学生がディプロマ・サプリメントや記載している内容を就職活動に活用できるようになる。	・ディプロマ・サプリメントの有効性を学生に周知し、就職活動での活用率を上げる。 ・学修ポートフォリオへの記入率を上げる。 ・学生がイベント参加後に必ずマイステップを入力する仕掛けを作る。
・ディプロマ・ポリシーに対する学修度の可視化を行い、学習管理システム（kyonet）に反映し、学生・教職員が活用できる環境を整備する。	・学修ポートフォリオに、ディプロマ・ポリシーに対する学生個人の学修到達度を表す「ディプロマ・ポリシー到達度」を可視化する。
・新たな GPA の活用方法を導入する。	・GPA の活用方法について学部・科の意見を集める。
・学生がカリキュラムマップ、履修系統図などの活用方法を理解し、自身の履修登録に役立てる。	・担任（アカデミックアドバイザー）による履修指導の方法を確立する。 ・カリキュラムマップ、履修系統図などをホームページや履修ガイドへ掲載し、ガイダンスにて学生へ周知する。

【評価指標②】 学修成果の可視化や成績評価の標準化の観点から、専任教員の担当科目の 50%以上においてルーブリックを導入することを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・専任教員の担当科目の 50%以上においてルーブリックを使用する。（2021年度は専任教員の担当科目の 43%で使用）	・ルーブリックの導入や活用のために有効な知見を全学に周知する。すでにルーブリックを活用している教員向けには、ルーブリックを見直すポイントを提示し、改善を推進する。
・アセスメント科目ルーブリックを運用する。	・認証評価の点検項目や成績評価等のデータを踏まえて、2023年度導入予定の新たな 3 つのポリシーと連動させる方法を検討する。

【評価指標③】 教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催等により、FD 活動の活性化を図る。また、全教員の FD 活動の参加を目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・組織的な FD 活動の活性化を図り、全教員が FD 活動に参加することを目指す。	・リフレクションシートから抽出した課題やニーズを踏まえ、各種 FD 活動を通して教員のどのような資質の向上を目指すかを整理した上で、FD 活動をプログラム化し、体系的に実施する。
・大学院 FD は、各研究科所属の教員が研究科の枠をこえて論文発表会に出席し、研究指導の観点から教員同士で意見交換を行う機会を設ける。	・全学 FD 委員会で方針を定め、各研究科に環境整備、体制整備を依頼する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

I-3. 学生生活

目標

充実した学生生活を支援し、学生の資質・能力を向上させる。

主となる委員会・会議

全学学生委員会

共立女子大学・短期大学国際交流委員会

主となる事務局

学生支援課

2022年度 事業計画

【評価指標①】 学生が孤立して学生生活を送ることのないよう、コミュニティ形成に関わる支援を行い、自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる学生の割合を98%以上に向上させることを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 1年修了時に「自身のことを気軽に相談できる関係の人がいる」学生の割合を98%にする。(2020年度1年次修了時アンケート90.6%、1~3年次修了時アンケート91.4%) 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員間で学生対応記録を共有できる「学生プロフィール(kyonet機能)」の内容充実に努め、適切な対応により信頼関係を構築する。 学生プロジェクトを5件立ち上げ、学生同士の意思の疎通を活性化する。 学生のサークル加入率を向上する。

【評価指標②】 学生が学修に専念し、継続することができるよう、給付型奨学金の拡充を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 学生のニーズに合った新たな奨学金制度を新設する。 	<ul style="list-style-type: none"> フューチャーズ募金やその他寄付金を原資として、成績優秀者への奨学金の設定や資格取得に伴う費用の助成の検討を行う。 2021年度に立案した「正課外活動を支援する奨学金(案)」について、規程化する。

【評価指標③】 学生が心身の健康を維持し、学修を継続することができるよう、フィジカルヘルスおよびメンタルヘルスに関わる相談体制の充実を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 学生相談室、保健室の現状を踏まえ、体制の強化と最適化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の影響による来談人数の増加と相談内容の多様化に対応するため、学生支援体制の強化と最適化を図る。 学生一人ひとりの希望や状況に合わせた面談環境、相談体制を整備する。
<ul style="list-style-type: none"> 学生の心身の健康に対する意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン講座や「保健室だより」等を活用し、保健室からの情報を5回以上発信する。 健康診断項目数を検討し、学生の健康管理を適切な状態に保つ。
<ul style="list-style-type: none"> 教職員に対し学生支援のための知識、スキル向上を目的とした研修会や情報提供を行い、参加者や関与者を100人以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 過年度の研修会のアンケート結果や他大学等の情報を収集し、研修内容や提供する情報に反映させる。

【評価指標④】 健康な学生生活を送るために欠かせない食の提供を充実し、学生食堂・売店の満足度を80%以上に向上させることを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 学修行動調査(修了時アンケート)における学生食堂・売店の満足度80%以上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 食堂の運営について学生ニーズに基づいたメニュー開発や食事環境の整備など、検討・改善を進める。 営業状況を毎月確認し、食堂運営を適正に維持する。

【評価指標⑤】 長期型・短期型、国内型・国外型を問わず、グローバル化に対応した教育（留学）プログラムの支援を充実し、参加者数を10%以上に増加させることを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・オンラインを中心とする教育（留学）プログラムへの参加者を全学生の10%以上にする。	・留学やオンラインプログラムへの参加を促すための説明会や国際化志向性を高めるための学内イベントについて、優先順位をつけて開催する。 ・協定校、提携校との情報交換を実施し、留学先の協定更新と新たな留学先の検討を行う。

【評価指標⑥】 外国人留学生と日本人の在学生在が外国語で交流する機会の増加を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・国際交流ボランティアを中心とした国際交流企画への参加者数を延べ100名以上にする。	・学生の主体的な企画参加と国際交流の活性化を目的に、国際交流企画を年間10回開催する。

【評価指標⑦】 正課外教育の支援の充実により、多様な学びの機会を提供し、正課外教育に対する学生満足度を90%以上に向上させることを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・正課外講座受講者アンケート回答のうち90%以上の満足回答（満足・やや満足）を得る。	・講座内容を充実させ受講生の満足度を向上させる。
・卒業生や社会人を対象としたリカレント教育の講座を増やし、2021年度比20%増の社会人受講者180名（2021年度149名）以上とする。	・女性の再就職やキャリアアップを目的とした講座の企画を増やし、広報する。

【評価指標⑧】 学生が主体的な活動の中で能力を伸ばすことができるよう、正課外活動への支援を充実し、クラブ・サークル支援の満足度を80%以上に向上させることを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・卒業年次生アンケートにおけるクラブ・サークル支援満足度を80%以上にする。	・学内公認団体などの学内の正課外活動団体のメンバーに対して学生が成長実感できる研修を実施する。

中期計画に掲げる 5 年間の目標と評価指標

I - 4. 学修支援・授業支援

目標

学修に専念できるよう、十分な学修支援を行うとともに、授業支援を適切に行い、教育効果を高める。

主となる委員会・会議
 全学教学改革推進委員会
 全学FD委員会
 図書館運営委員会

主となる事務局
 教育学術推進課

2022 年度 事業計画

【評価指標①】 授業外での学修の必要性を高めることにより、卒業時における 1 日当たりの授業時間外の学修時間について、「2～3 時間以上」を 80%以上、「していない」を 0%にすることを旨とする。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 卒業時における 1 日当たりの授業時間外の学修時間について、「2～3 時間以上」を 80%以上、「していない」を 0%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学修支援サイトに「大学での学びとして求められるもの」「レポートの書き方」のコンテンツを加える。 教員向けに授業時間外学修を活用した授業デザインを紹介する情報を発信する。
<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの結果で学修時間を 2021 年度比で 20%増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員向けに授業時間外学修を活用した授業デザインを紹介する FD 研修会を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> 単位制度の実質化に則したシラバスを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2023 年度シラバス執筆に向けて授業時間外学修を適切に記載する為シラバスチェック項目を整理する。

【評価指標②】 アクティブ・ラーニングの普及を中心とした、教育効果を高める授業支援の在り方を検討し、適切な支援体制を整備する。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> シラバスの授業方法にアクティブ・ラーニング手法を記載している授業割合を大学・短期大学共に 80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育効果が高く、運営負荷の低いアクティブ・ラーニングの情報提供、個別支援を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 授業を支援する体制として TA 制度を導入し運用を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> TA 制度の運営状況を把握し、円滑な運営のための支援を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 2021 年度に構築した AI チャットボットの活用実績を踏まえ、DX 化を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 蓄積したデータに基づき、質問と回答をアップデートし、利用者数推移と質問状況を検証する。
<ul style="list-style-type: none"> オンライン授業（オンデマンド授業）の運用について、点検・評価に基づき改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 2021 年度のデータをもとに、教育効果の高い授業を洗い出し、教育手法を学内に共有する。

【評価指標③】 授業外学修の支援を充実させ、学生が目指す学修成果を達成できるように支援する。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 入学前教育から初年次教育を経て専門教育を受けられるまでの力を身につけさせるための①基礎学力の補完②学び方の学び等スキルの醸成③モチベーションの向上等を網羅的に展開するリメディアル教育について、教職協働の体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 各学部・科で入学前教育や初年次教育の成果を分析し改善へ繋げられるよう教職協働で情報を共有し学生を支援する。また、学生に対する相談窓口の設置や学力補完のための講座開設等を推進する。

【評価指標④】 ラーニング・コモンズの利用者数を年間 50,000 人以上、利用満足度を 90%以上、図書館利用サービス満足度を 90%以上にすることを旨す。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の利用を FD の観点から推進し、引き続きラーニング・コモンズおよび図書館の利用満足度 90%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ランチセミナー、図書館やラーニング・コモンズ内の展示内容を授業や教員と連携した内容で実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の推薦図書を集め、該当資料の平均貸出を 5 回以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員の推薦図書の利用を学生図書委員が促進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語多読本の利用状況を 2021 年度比で 30%増とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ kyonet や館内掲示での英語多読本紹介を中心に非常勤講師への周知を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館アプリの新入生の利用率を 50%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の図書館利用時に図書館アプリを周知し、インストールを促す。

中期計画に掲げる 5 年間の目標と評価指標

I-5. 就業力

目標

積極的にキャリア形成支援を行い、社会を生き抜く力を育む。

主となる委員会・会議
全学学生委員会

主となる事務局
学生支援課

2022 年度 事業計画

【評価指標①】 在学生向け調査および卒業生調査を活用し、体系的なキャリア教育支援プログラムを実施する。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に対して、キャリアガイダンス・各種プログラムを体系的に配置して確実に実施し、学生の満足度（期待以上もしくは期待程度）99%、参加率 80%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援グループ実施のガイダンスやプログラムを体系化し、学生の内定率を上げる内容にする。 ・講座の学年による受講制限を撤廃し、低学年からのキャリア形成支援をする。
<ul style="list-style-type: none"> ・担任の面談実施率を 100%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任面談の意義を明確化し専任教職員で共有する。
<ul style="list-style-type: none"> ・1 年生はキャリアデザインシートの入力率は 95%以上、2~4 年生は学修目標の入力率 80%以上として、教員のコメント入力率は 100%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザインシートや学修目標、担任面談のコメントの入力状況を定期的に担任（アカデミックアドバイザー）に提供することで入力促進する。
<ul style="list-style-type: none"> ・共立女子短期大学の進路決定率を 90%にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼミ単位の支援や一人ひとりの希望に合わせた適切な支援を行う。 ・共立女子短期大学生向けの学内企業説明会を実施し、新規企業の開拓と良好な関係性を築く。

【評価指標②】 学生アンケート項目における、就職・進路満足度について、95%以上の学生から満足を得ることを目指す。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・卒業年次アンケートで就職支援満足度および進路先の満足度を 95%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の講座受講効果を高めつつ、講座を増やす。 ・キャリア支援グループと教員・保証人との連携を強化し、学生のキャリア支援を多面的に展開する。 ・ガイダンス→プログラム→個別相談の流れを作り、効率の良いキャリア支援体制を構築する。

【評価指標③】 都内女子大就職率 Top5 入りすることを目標にする。（就職率＝就職者数÷（卒業者数－大学院進学者数）×100）

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・都内女子大就職率 Top5 入りする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業来訪対応や各種情報交換会への出席に加えて、内定実績のある企業を中心に訪問し、有益な情報を得て学生に適切な指導を行う。 ・他校と交流を図ることでお互いの就職支援活動状況を共有し、本学の学生の特長を活かした就職支援体制を再構築する。

【評価指標④】 学生アンケート項目における、就職に対する不安を 2017 年度調査より 5 ポイント以上減らすことを目指す。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・学生アンケートにおける就職に対する不安を 2021 年度調査より 5 ポイント以上減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス学部新設に伴う相談件数の増加に対応できる体制を整える。 ・学生のニーズに合ったプログラムを実施する。 ・学生が相談しやすい体制を整え、学生との信頼関係を構築する。

【評価指標⑤】卒業時における社会人基礎力の自己評価で、全項目の平均を 3.30 以上にすることを目指す。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
・卒業時における社会人基礎力の自己評価で、全項目の平均を 3.30 以上にする。	・学生生活における行動目標を明確にすることができるガイダンスを、1・2 年生対象に実施する。 ・自身の強みや弱みを分析し、今後の就職活動に繋げる講座を実施する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

I-6. 地域連携

目標

地域連携活動を通じて、地域に関する教育・研究の進展を図るとともに、知の成果を広く社会に還元し、教育的・学術的・文化的貢献を果たす。

主となる委員会・会議

社会連携センター

主となる事務局

教育学術推進課

2022年度 事業計画

【評価指標①】 本学の特徴や強みを踏まえた地域連携活動を推進するため、地域における本学の役割や地域連携の在り方を明確化する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 社会連携センターを中心に、自治体、大学間又は産学官連携の具体的な取組について、協定に基づき教員・学生とともに行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 連携協定を締結した南三陸町におけるフィールドワークプログラムを実施する。また地域や企業等と連携した全学的なPBLを普及させる。 SDGsの教職員・学生への理解・周知を行い、地域社会との協働活動で指標に繋がる企画を実施する。 連携協定を締結している自治体と相互に活性化に繋がる取組を実施する。また(株)八社会、林兼産業(株)などとの連携を強化し商品化により本学のリソースを社会に発信する。

【評価指標②】 地域における他大学、各自治体、地域経済界等で構成されるプラットフォームを形成し、教学改革を推進する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 「千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム」(以下、千代田区キャンパスコンソという。)¹の活動および広報を推進して、認知度の向上を図り、更に地域・社会に開かれた事業を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 千代田区キャンパスコンソ共同公開リレー講座について、受講者アンケート結果をもとに、講座の充実と広報面の改善を行い、受講者を増やす。 地域に関する授業科目や本学企画の共同開発授業の開講の可能性を検討する。 千代田区キャンパスコンソ共同利用に供した神田一ツ橋キャンパスを活用したイベントを実施する。

【評価指標③】 家政学部児童学科付設の「発達相談・支援センター」の活動を点検・評価し、地域と連携する全学的なセンターにするなど一層の充実を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 発達相談・支援センターについて、今後の在り方を明確にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達相談・支援センター運営委員会において活動の点検・評価を行い、全学的なセンターなどの今後の方向性について検討する。
<ul style="list-style-type: none"> 子育て広場「はるにれ」は、年間750組の利用、子育て講座年間6回、計80組が参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報「千代田」や大学ホームページでの発信とともに、「はるにれ」ホームページにて利用者アンケートを実施し、利用者ニーズを把握した子育ての専門情報の提供を行う。 半期定額利用券を引き続き発行する。
<ul style="list-style-type: none"> 子育て広場「はるにれ」について、質の高い運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献コーディネーターによる専門性を生かしたサポート、スタッフの連携、学生ボランティアの指導等を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児親子グループ「さくらんぼ」について、年間30回実施し、親子45組の登録を目標とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 登録者だけでなく落選した応募者にも「はるにれの子育て講座」をご案内するなど、重要なステークホルダーとして子育てネットワークの構築に努める。

¹ 千代田区内の近接する5大学(大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松學舎大学、法政大学)で、経済社会の健全な発展の推進力となることを目指して設立した組織。

【評価指標④】在学生の修学や教職員の子育て支援をより一層サポートするため、共立女子学園内託児所の活動を点検・評価し今後の在り方を検討する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・在学生や教職員のニーズに合った託児所サービスを提供する。	・学内教職員に向けて、年2回（春・秋）にグループウェアを通じて広報を行い、利用を促進する。 ・開設から5年間の総括と今後の課題を検討する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

I-7. 教学マネジメント

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行を行う。

主となる委員会・会議
全学教学改革推進委員会

主となる事務局
大学企画課

2022年度 事業計画

【評価指標①】学長を中心とした全学的な教学マネジメントを構築し、大学教育の改革サイクルを展開させる。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・認証評価受審の準備を通じて教育研究の質を向上させる。	・短期大学の認証評価受審に向けた準備を行う。

【評価指標②】教育課程等の見直しに合わせて、専任教員と非常勤教員との連携や責任体制を明確化し、授業科目における専任教員の担当比率を高める。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・「基本科目数」を必要に応じて導入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「基本科目数」導入の必要性について検証し、その必要性を全学で共通認識を持つ。 ・「基本科目数」導入を目指して、科目ごとに専任教員（専任）を明確化する。

【評価指標③】共立女子大学・短期大学の教員枠数である「基本教員数」に基づき、学部・科の特性を踏まえ、教育研究能力の高い教員を採用する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・教育研究能力の高い教員を採用するための方針を策定する。	・各学部・科での教員採用方法の改善を提案し、選考方法を平準化する。

【評価指標④】入口—中身—出口管理を一貫した流れとして、学生の成長に寄与できる、IRを実践する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・学生の成長（学修成果）を可視化し、内部質保証を推進する環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・Qlik Sense（分析ツール）の利用者が必要なデータまで迷うことなくたどり着けるように分析シートを整理する。 ・自己点検・評価を行う際に確認するデータを整理する。

【評価指標⑤】学園の経営課題や共立女子大学・短期大学の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・第二期中期計画の各評価指標の達成を目指して、全学自己点検・評価委員会を中心に内部質保証を推進する。	・「事業計画書」「事業報告書」「進捗管理シート」を活用しながら適切に点検・評価する。
・2023年度入学者アンケート内の入学理由において、「ブランディングの核」関連項目の回答割合を上げる。	・各広報媒体において、本学のブランディングの核（「リーダーシップの共立」）を伝える内容を継続的に展開する。

Ⅱ. 共立女子中学高等学校

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅱ-1. 生徒確保

目標

教育課程・教育指導の改善充実、戦略的な広報、入試制度改革等を通じて、志願者の質の向上と人数の増加を図る。

主となる委員会・会議
広報部
教務部
中高将来構想専門委員会

主となる事務局
中学高等学校事務室

2022年度 事業計画

【評価指標①】 共立女子中学校について、入学定員を確保する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・1学年320人の定員を確保する。	・十分な志願者を確保するため、これまでの広報実績を踏まえ、WebやSNS、PR委員による生徒目線のアイデアをさらに活かした効果的な広報を行う。

【評価指標②】 実受験者数で1,000人、受験者総数で1,500人以上を目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・実質倍率2倍以上を維持し、実受験者数1,000人、受験者総数1,500人以上にする。 (2020年度入試は、実受験者数958人、受験者総数1,287人)	・新規層開拓のために、外部業者とも連携して積極的に広報する。 ・小学校低・中学年の時点から本校に強い関心を持つ志願者を形成する企画を検討・実施する。

【評価指標③】 教育理念に共感し、目的意識の高い受験者層を拡充するため、戦略的な広報計画を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・伝統的な教育と近年の改革が、社会の求める力と合致していることが浸透する広報を実施する。	・伝統的な教育に基づいた教育指針や新たな教育改革の実践の様子をWebやSNS等を中心として積極的に発信する。

中期計画に掲げる 5 年間の目標と評価指標

II-2. 教育の質

目標

共立女子中学高等学校独自の学習システムを充実させ、進学面を強化し、時代に即した生徒の学力向上を図る。

主となる委員会・会議
教務部
国際交流部
進路指導部
情報システム管理委員会

主となる事務局
中学高等学校事務室

2022 年度 事業計画

【評価指標①】 グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上や資格試験等への対応を進める。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 英語運用スキルの高い生徒のモチベーションを維持・向上を図り、中学卒業時の英検準 2 級以上の取得率を 50%以上、TEAP (Test of English for Academic Purposes) の Speaking、Writing 平均点を共に 70 点以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種講座やプログラム (ClassLive オンライン留学やオンライン英会話など) を通じて 4 技能の向上を図る。

【評価指標②】 グローバル人材育成の社会的要請や、海外研修希望生徒の増加傾向等を踏まえて、国際交流プログラムを充実させる。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 国際交流プログラムを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語学習や国際交流に関する様々なプログラムやイベントを企画、実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ターム留学や海外研修の状況を改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外での研修実現を目指し研修先や内容を見直す。

【評価指標③】 新中学入試 (帰国生入試における定員増、英語入試の開始、インタラクティブ入試の導入等) により、既に一定の英語力を有する入学者への英語力の向上策を検討し、確実に対応する。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> Global Competence Program (グローバルコンピテンスプログラム) 導入を目指し、英語のイマージョン教育をネイティブ教員と日本人教員のチームティーチングで実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校の探究活動に結びつけて、SDGs などグローバルな問題を英語で学び、考えや意見を英語で共有する活動を行う。 英会話授業において、英検準 2 級程度の英語力をもつ希望者に、より向上させるための授業を行う。

【評価指標④】 新学習指導要領を踏まえつつ、「4+2 システム」と「4 つの力の育成プログラム」の点検・評価を行い、各教科指導の質を高める。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2022 年度から施行される高等学校新学習指導要領の実施状況を確認し、対応を適切に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校新学習指導要領の実施状況について把握し、必要に応じて指導・助言を行う。 中学の「総合的な学習の時間」で、探究に必要な力が身に付くよう内容を検討する。 高校では、探究の本格的な実施に向け、内容の検討と準備を行う。
<ul style="list-style-type: none"> 各教科指導の質を高め、定期試験による評価だけでなく、様々な観点からの学習成果を、総合的に評価できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT の活用を充実させた授業計画を作成する。 学校ループリックおよび教科ループリックを作成し、点検・評価に活用する。 各教科の評価方法や基準についての見直しを行う。
<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度大学入試の動向に応じて必要な対応を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2025 年度大学入試に関する情報を収集し、教育課程の更なる改訂を進める。

【評価指標⑤】 思考力・判断力・表現力を高める時代に即した教育の展開として、主体的・対話的な深き学びを図り、その実施方法の研究を進める。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段の学習が社会で求められていることと繋がっているという意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業インターンワークや公的機関の出張講義など、企業・団体との連携を強化する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の自主的で自由な活動の範囲を増やすとともに、責任と秩序の意識を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学年行事、生徒会活動、学級活動などを利用して、学校活動の中で生徒に考えさせ、課題解決させる場面を多く作る。 ・ 中学で「探究的な活動の時間」を設ける。
<ul style="list-style-type: none"> ・ アクティブ・ラーニング実践のために必要なファシリテーターとしてのスキルを教員が身に付け、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ Web上で他校の授業研究を行える「Find!アクティブラーナー」サイトの利用を促す。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主体的・対話的な学びの実践例を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他校の好事例を調査する。 ・ 中学の探究的な活動の時間に外部業者の導入を検討する。

【評価指標⑥】 ICT教育の充実策を検討し、実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ ICTを活用した授業及び指導を行うことで、より効果的な教育を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専任も講師も授業環境を整え、ICT教育の質を高める。 ・ Wi-Fiの接続環境、電子黒板を活用したオンライン授業、ハイフレックス授業等、ICT教育や環境の質の向上について検討する。 ・ 必要に応じて教員のスキルアップ研修を実施する。 ・ タブレットを活用した教育を展開する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅱ－3. 教育力

目標

生徒の学力向上・進学実績の向上を図るため、教育力を向上させる。

主となる委員会・会議
教務部
進路指導部
生活指導部

主となる事務局
中学高等学校事務室

2022年度 事業計画

【評価指標①】 教員の相互評価や研究授業・教員研修を充実させ、確固とした教員の育成システムを構築する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2022年度の学校評価に関わる自己点検アンケートの「教職員の育成システム・研修制度の充実等により教育力の向上を目指す」の設問に対して、「ほぼ達成できた」以上を30%以上にする。(2020年度は19.8%)	・研究授業や教員研修をICTの活用などにより充実させ、個別最適で協働的な学びを実践する。

【評価指標②】 学校評価に関わる生徒アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にするを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・学校評価に関わる生徒アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にする。	・補習・補講の機会を確保するとともに、ICTも活用して生徒一人ひとりの状況に応じた指導を実践する。

【評価指標③】 学校評価に関わる保護者アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にするを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2022年度の学校評価に関わる保護者アンケートの「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にする。(2020年度は84.9%)	・ICTも活用して保護者との情報共有を適切に行い、共に生徒を育てていく協力体制の構築を進める。

【評価指標④】 学校評価に関わる生徒アンケートに、「学校生活を通して、校訓である誠実・勤勉・友愛を意識し、行動ができるようになった」の設問を新たに設け、「おおむねあてはまる」以上を80%以上にするを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2022年度の学校評価に関わる生徒アンケートの「学校生活を通して、校訓である誠実・勤勉・友愛を意識し、行動ができるようになった」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を90%以上にする。	・行事を計画通り実施し、生徒が「4つの力（関わる力、動く力、考える力、解く力）」を身に付けていく中で、主体的に校訓の意義を体得し行動に結びつけることができるよう指導する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅱ－4. 進路

目標

大学進学等進路実績を踏まえた課題と対策について徹底した調査分析を行い、その結果に基づいて進路指導を充実させて、生徒一人ひとりに相応しい進路選択の機会を提供する。

主となる委員会・会議
進路指導部
教務部

主となる事務局
中学高等学校事務室

2022年度 事業計画

【評価指標①】 国公立大学への現役進学率を毎年10%以上（東京大学3名以上）にすることを目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・国公立大学への進学者数10%以上を目指す。	・進路講演会等の企画を通じて進路に対する視野を広げる工夫を行い、国公立大学進学への動機付けを行う。

【評価指標②】 難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を毎年30%以上に、またGMARCH以上の大学への現役進学率を60%以上にすることを目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・本人と大学とのマッチングを重視し、地方大学にも視野を広げた上で、希望する大学への進学率を上げる。	・早い時期からの進路研究ができるよう情報提供をし、生徒が各大学の様々な入試方式のうち、自分にあった方式での受験に対応できるようサポートする。

【評価指標③】 共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・共立女子大学・共立女子短期大学へ進学する生徒を本校全体の大学進学希望者の15%以上にする。	・各種ガイダンスに加え、可能な範囲で出張講義など大学の教学面の中身に触れる機会を充実させる。 ・高校在学中に大学の授業を履修できる「KWU 高大連携プログラム」を生徒保護者に周知する。

【評価指標④】 2021年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・新入試制度に対応した進路指導を行い、生徒一人ひとりが希望する大学への入学率を上げる。	・高校教員対象説明会の参加と内容を共有する。 ・新入試制度に関する講演会等を企画、実施し、生徒および保護者に適切に情報提供する。

【評価指標⑤】 学校評価に関わる生徒アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で90%以上にすることを目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・学校評価に関わる生徒アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で90%以上にする。	・キャンパスツアーや出張授業のような大学の生活や学問に直接触れる機会を増やす。 ・早期から進路研究ができるよう、チューター、進路指導部等の環境を充実させる。

【評価指標⑥】 学校評価に関わる保護者アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で85%以上にすることを目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2021年度の学校評価に関わる保護者アンケートの「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「おおむねあてはまる」以上を高校平均で85%以上にする。(2020年度は82.2%)	・進路通信による情報提供、保護者参加可能な講演会や説明会の企画を行う。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅱ-5. 管理運営

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行をおこなう。

主となる委員会・会議
中高将来構想専門委員会

主となる事務局
中学高等学校事務室

2022年度 事業計画

【評価指標①】 学園の経営課題や共立女子中学高等学校の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・キャンパスグランドデザイン検討プロジェクトを編成し、将来を見据えた戦略を策定する。	・プロジェクトの活動の活性化を図るため、業務を適切に配分し、人員配置を行う。

【評価指標②】 併設校間の教員の人事交流を活発にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・生徒数、カリキュラム編成に即した教員数の適正化を図る。	・定年退職者の状況、生徒数、カリキュラム編成等を勘案し、教育の質を低下させることのない教員体制を併設校間で検討する。

Ⅲ. 共立女子第二中学校高等学校

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-1. 生徒確保

目標

教育課程・教育指導の改善充実、戦略的な広報、入試制度改革等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議

入試広報部
入試制度検討委員会
二中高将来構想委員会

主となる事務局

第二中学校高等学校事務室

2022年度 事業計画

【評価指標①】共立女子第二中学校高等学校について、入学者数の増加に努める。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2022年度（2023年度入試）における共立女子第二中学校の入学者数を105名とする。 	<ul style="list-style-type: none"> Web広報と資料発送の取組を強化する。 外部業者とも連携し、塾訪問活動を強化する。
<ul style="list-style-type: none"> 2022年度（2023年度入試）における共立女子第二高等学校の入学者数を210名（高入140名・内進70名）以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 新コース制の認知度を高める広報を中心に、Web広報と資料発送の取組を強化する。 外部業者とも連携し、塾訪問活動を強化する。

【評価指標②】共立女子第二中学校については、実受験者数200人、受験者総数で400人以上を目標とする。共立女子第二高等学校については、実受験者数350人、受験者総数で380人以上を目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2022年（2023年度入試）において、共立女子第二中学校では、実受験者数200名、受験者総数500名以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 共立女子第二中学校では、キャンパス環境や体験重視の学び、高校までの一貫教育、高い現役進学率、充実した奨学金制度を中心に広報する。
<ul style="list-style-type: none"> 2022年度（2023年度入試）において、共立女子第二高等学校では、実受験者数200名、受験者総数を250名以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 共立女子第二高等学校では、上記に加え、KWU高大連携プログラムや進路状況についても重点的に発信を強化する。

【評価指標③】定員に満たない年次は、海外からの帰国子女を含め、積極的に転編入を受け入れる。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 海外の教育施設や海外帰国生向けの広報媒体や本校公式サイトを通して、適切な広報活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 海外の教育施設や海外帰国生向けの広報を積極的に行う。 海外帰国生向けに、ホームページを通じた情報発信を強化する。 海外子女教育振興財団、海外・帰国子女教育専門機関(JOBA)が主催する合同相談会に参加する。

【評価指標④】スポーツ・芸術活動等に優れている、また卒業生子女であることに配慮した入試制度を積極的に活用する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> スポーツ・芸術等に優れた者を対象とした新しい奨学金制度を効果的に運用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の状況をSNS等で広報する。 スポーツ・芸術等に優れた者を対象とした新しい奨学金制度を効果的に運用し、志願者を増加させる。
<ul style="list-style-type: none"> 同窓会と連携した広報活動、生徒募集活動を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 同窓会との連携のもと、卒業生子女に対する情報発信の機会と方法を増やす。

【評価指標⑤】教育理念に共感し、目的意識の高い受験者層を拡充するため、戦略的な広報計画を実施する。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 給付奨学金制度を活用し、各コースの中核を担える高い学力層の生徒を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給付奨学金制度を検証し、制度の改善を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 塾 150 校、公立中学校 300 校の訪問を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部業者とも連携した広報活動を展開し、受験情報を詳細に発信するとともに、受験生や進学塾が持つ本校のイメージなどをリサーチする。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-2. 教育の質

目標

新学習指導要領・高大接続改革等、新たな教育体制に対応し得る教育課程やシラバスの充実、国際化の進展を図り、生徒の学力および21世紀に求められる力（思考力・実践力）の向上に努める。

主となる委員会・会議
英語科
二中高国際交流委員会
教務部
進路指導部

主となる事務局
第二中学校高等学校事務室

2022年度 事業計画

【評価指標①】 2022年度より開設する高等学校の新コース（特別進学コース、総合進学コース、英語コース、共立進学コース）の教育目標の達成を目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2022年度より開設する高等学校の新コース（特別進学コース、総合進学コース、英語コース、共立進学コース）の教育目標の達成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 特別進学コースは、互いに競争しながら高め合い難関大学を目指すための基盤となる学力を形成する。 総合進学コースは、生徒の個性を伸ばし、私大から芸術系大学まで希望する進路先を目指すための基盤となる学力を形成する。 英語コースは、1年次3学期の全員ターム留学等、独自の英語カリキュラムを実施し、英語で思考する力の基礎を育成する。 共立進学コースは、共立女子大学・共立女子短期大学と共立女子第二中学校高等学校の関係性を最大限活かしたKWU 高大連携プログラムなどの諸準備を適切に進める。

【評価指標②】 グローバル化の進展の中で、国際共通語である英語力の向上は極めて重要であることから、英語教育改革を実行する。具体的には、徹底した英語教育を展開するシラバスに抜本的に変更する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 英語教育を抜本的に見直し、生徒の英語力向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語教育ブランドデザインを策定し、授業改革、プログラム（英語研修、ISA エンパワーメントプログラム等）を実践する。 英語コースを計画通りに運用する。 ニュージーランドの姉妹校との短期交換留学、中期（ターム）留学を再開する。 「Global Language Square」においてイマージョンワークショップを実施する。

【評価指標③】全生徒の英語力を確実に飛躍させるため、4技能統合型の英語授業を展開し、実用英語技能検定（英検）における数値目標（下記）を達成することを目指す。

中学 AP クラス…卒業までに全員準 2 級以上取得、 中学 S クラス…卒業までに全員 3 級以上取得

高校特別進学コース…卒業までに全員 2 級以上取得

高校総合進学コース…卒業までに全員が準 2 級以上を、うち 25%が 2 級以上取得

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学 AP クラスは卒業までに全員準 2 級以上を、S クラスは卒業までに全員 3 級以上を取得する。 ・ 英語コースは英検準 1 級以上、高校特別進学コースは 2 級以上、その他コースは準 2 級以上を卒業までに取得を目指す。そのうち総合進学コースについては、25%が 2 級以上の取得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4 技能統合型授業を軸に、オンライン英会話、英語宿泊研修、短期集中英語研修、英検ゼミを行う。 ・ 4 技能統合型授業を軸に、オンライン英会話、英検ゼミ、短期中期ニュージーランド留学（希望制）を実施する。 ・ 2022 年度より英語コースは上記に加え、ベルリッツ連携授業、ネイティブ講師ライティング授業、全員ターム留学（1 年次 3 学期）等を実施する。

【評価指標④】新学習指導要領を踏まえた「針路プログラム」の点検・評価を実施し、より一層充実させることで、各学年の外部模試における数値目標（進研模試判定で B1 以上、学年の 30%）を達成することを目指す。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部模試における数値目標（進研模試判定 B1 以上、学年の 30%）を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新学習指導要領を踏まえて点検した「針路プログラム」を各学年で徹底し、スタディサポート、進研模試を活用しながら学力を向上させる。 ・ 学習記録をする「共立手帳」を活用し、学習の PDCA サイクルを身に付け、学力を向上させる。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-3. 教育力

目標

生徒の学力向上・進学実績の向上を図るため、教育力を向上させる。

主となる委員会・会議
情報システム委員会
二中高将来構想委員会

主となる事務局
第二中学校高等学校事務室

2022年度 事業計画

【評価指標①】 教員の相互評価や研究授業・教員研修を充実させ、確固とした教員の育成システムを構築する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・学力の底上げをし、成績不振による単位未修得者をゼロにする。	・学力の底上げの施策を具体化し、実践する。
・研修会等への参加の増加と同時に研修成果の共有化を一層推進する。	・年2回の授業公開を通じて、教員間での意見交換を行い、各教員のスキル向上に努める。 ・研修会等の情報をグループウェア等のシステムを通じて発信することを徹底する。
・3年間の「共立探究」の実践内容を検証し、より充実した内容にする。	・3年間の検証に基づいた実施計画を作成、実践する。
・教員の充実した研修時間を確保する。	・時間割の調整を行うとともに、教員がオンライン研修会等に参加できる環境整備を行う。

【評価指標②】 学校評価に関わる生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。(2020年度は86.0%)	・新型コロナウイルス感染症の影響に即時対応できる環境を整える。 ・多様な生徒に対応できる学習システムの導入を検討する。

【評価指標③】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・保護者アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。(2020年度は84.7%)	・学年通信・進路通信・ホームページを通じて、教育の実践内容や学習環境の改善について適切に周知する。

【評価指標④】 学校評価に関わる保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させてよかった」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させてよかった」の設問について、「そう思う」以上を93%以上にする。	・年3回の保護者会や毎月の学年通信を通じて保護者への情報伝達をオンラインも活用しながら推進するとともに内容の工夫と改善を行う。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-4. 進路

目標

共立女子第二中学校高等学校独自の進路システム「針路プログラム」を充実させ、大学進学等進路実績を踏まえた課題と対策について徹底した調査分析を行い、その結果に基づいて進路指導を充実させて、生徒一人ひとりに相応しい進路選択の機会を提供する。

主となる委員会・会議 進路指導部 教務部	主となる事務局 第二中学校高等学校事務室
----------------------------	-------------------------

2022年度 事業計画

【評価指標①】特別進学コースにおける国公立大学および難関私立大学（早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、東京理科大学、国際基督教大学）の現役進学率を30%以上に、GMARCHおよび理工系・医療系への現役進学率を60%以上にすることを目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・特別進学コースにおける国公立大学および難関私立大学（早慶上理ICU）の現役進学率を25%以上に、GMARCHおよび理工系・医療系への現役進学率を50%以上にする。	・自己理解を深めた上で卒業後のビジョンを明確にする「キャリア教育プログラム」を実施する。 ・教員の授業改革、長期休暇中のゼミ、模試検討会の充実、放課後の自習室開放を継続する。 ・外部講師ゼミとスタディサプリの成果を検証する。

【評価指標②】総合進学コースにおける共立女子大学・短期大学への現役進学率を60%に、外部大学への現役進学率を40%にすることを目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・総合進学コースから共立女子大学・短期大学への現役進学率を60%に、外部大学への現役進学率を40%にする。	・自己理解を深めた上で卒業後のビジョンを明確にする「キャリア教育プログラム」を実施する。 ・小論文および面接指導ガイダンスを行い、推薦入試対策を行う。また、サマーゼミの充実、各種検定試験受験の奨励と放課後の自習室開放を継続する。

【評価指標③】共立女子大学・短期大学の教学面での魅力を伝え、志望者をサポートする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・共立女子大学・共立女子短期大学への志望者をサポートする。	・自己理解を深めた上で卒業後のビジョンを明確にする「キャリア教育プログラム」を実施する。 ・共立女子大学個別説明会、講演会、オープンキャンパス、KWU 高大連携プログラムの積極的な参加を促す。 ・小論文、面接指導ガイダンス等、入試対策を行う。

【評価指標④】2021年度入試からの新基準に沿った新入試制度対策を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・毎年変化する入試に対し、受験生が不安を抱くことがないよう、常に新しい情報の提供と適切な入試対策を実施する。	・「針路プログラム」の点検・評価、共通テストの研究を各教科で行い、新しい入試に対する対策を強化する。また、総合型選抜対策として、小論文対策を体系的に実施し、書く力、表現する力を養成する。 ・入試方式の変更等、受験生に必要な情報は進路説明会・進路通信を通じて周知する。

【評価指標⑤】学校評価に関わる生徒アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にすることを目標とする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2022年度の生徒アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。（2020年度は80.8%）	・進路説明会や講演会を積極的に実施するとともに、針路冊子の見直しを進め、より有用な進路情報を伝えていく。 ・個人面談、三者面談等を通じて、きめ細かく進路に関する相談に応じる。

【評価指標⑥】学校評価に関わる保護者アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にするを目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2022年度の保護者アンケートによる「大学進学に向けての相談・指導体制が整っている」の設問について、「そう思う」以上を90%以上にする。(2020年度は87.1%)	・針路冊子や進路通信を通じて、的確な進路情報の提供を行う。 ・保護者会、保護者面談を通じて情報共有するとともに、随時相談に応じる体制を整える。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

Ⅲ-5. 管理運営

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的な企画立案、機動的な意思決定および執行をおこなう。

主となる委員会・会議 二中高将来構想委員会	主となる事務局 第二中学校高等学校事務室
--------------------------	-------------------------

2022年度 事業計画

【評価指標①】学園の経営課題や共立女子第二中学校高等学校の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある学校づくりに教職員一体となって取り組む。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・高校新コースの着実な遂行に向け全教職員が一体となって取り組み、2023年度への募集広報につなげる。	・年2回の拡大職員会議において課題を整理する。 ・教員相互の研修を通じ、ICTを活用した授業改革や効果的な広報手段の獲得に取り組む。

【評価指標②】入学者数に則したカリキュラム改革を実施し、人件費の抑制に努める。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・高校新コース制を契機に、学力を高めるより効率的な授業・クラス編成を行う。	・各コースの授業・クラス編成を検証しながら、業務を適切に配分し、効率的な人員配置を行う。

【評価指標③】併設校間の教員の人事交流を促進する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・生徒数、カリキュラム編成に即した教員数の適正化を図る。	・定年退職者の状況、生徒数、カリキュラム編成等を勘案し、教育の質を低下させることのない教員体制を併設校間で検討する。

IV. 共立大日坂幼稚園

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-1. 園児確保

目標

教育課程・教育指導の改善充実、入園者選考方法の改善等を通じて、志願者を増加させる。

主となる委員会・会議 入園考査関連委員会	主となる事務局 —
-------------------------	--------------

2022年度 事業計画

【評価指標①】共立大日坂幼稚園について、入学定員を確保する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・入園定員を確保する。	・幼稚園案内パンフレットやホームページ上での広報活動、未就園児への活動や説明見学会を開催し、多くの保護者に園での活動内容や教育方針について理解を深めてもらう。

【評価指標②】定員に満たない年次は、積極的に転編入を受け入れることを目標にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・園児数が定員に満たない年次は積極的に転編入を受け入れる。	・編入者募集情報について、ホームページや文京区私立幼稚園連合会ホームページ上に掲載する。

【評価指標③】教育理念に共感する志願者を獲得するために効果的な広報計画を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・ホームページ、案内パンフレットを用いて園児活動を伝え、入園児数確保に繋げる。	・ホームページのトピックスに園の活動を年55回以上掲載する。 ・幼稚園案内パンフレットを作成し、園児の活動や教育について掲載する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-2. 教育の質

目標

新幼稚園教育要領を踏まえ園児が生きていくための力を育む。

主となる委員会・会議
幼稚園教員会

主となる事務局
—

2022年度 事業計画

【評価指標①】新幼稚園教育要領を踏まえ、「遊び」を通しての指導や就学前教育を取り入れた教育を徹底する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートを実施し、「教育方針や目標がしっかりしている」については、「そう思う」以上を100%（2020年度は89.9%）、「教育方針にそって保育実践がなされている」については、「そう思う」以上を100%とする。（2020年度は83.1%） 	<ul style="list-style-type: none"> 教育方針や目標について、全ての保護者に理解していただけるよう役員会や保護者会において伝える。 教育方針にそった保育実践について、保護者宛に配布する「学年だより」のなかで活動を報告する。

【評価指標②】園児の活動・行事・生活それぞれについて幼稚園教育要領の中の「幼稚園教育の基本」が推進されているのかを検証する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 学校評価のアンケート、「教師は、遊びを大切にし、発展させ、豊かな学びを促している」について、「そう思う」以上を98%以上とする。（2020年度は85.4%） 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月保護者宛に配布する「学年だより」の中で、カリキュラムに沿った「遊び」「活動」についての月間目標を詳細に記載し、活動について写真も交えて報告する。

【評価指標③】教育活動との関係性を配慮しつつ、社会の動向、文京区の要請等を把握し、地域・社会との連携策を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 地域の未就園児を対象とした園庭開放および絵本の読み聞かせを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の未就園児を取り込んだ園庭開放を12回、絵本の読み聞かせを10回実施する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

IV-3. 教育力

目標

教育力を向上させて、園児一人ひとりの健やかな成長を促す。

主となる委員会・会議
園内研修検討委員会

主となる事務局
—

2022年度 事業計画

【評価指標①】様々な領域を踏まえた計画的な園内研修システムや教員相互が評価し合う研究保育や学外での教員研修の充実を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 共立女子大学家政学部児童学科の教員と連携した園内研修を実施し、教育力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修において共立女子大学家政学部児童学科の教員と事例をもとに意見交換する。

中期計画に掲げる 5 年間の目標と評価指標

IV－4．保護者との連携・協力

目標

共立大日坂幼稚園で園児が心から安心して過ごすために、保護者と温かな関係を築き、絆を深める。

主となる委員会・会議 主となる事務局
幼稚園教員会 —

2022 年度 事業計画

【評価指標①】保護者懇談会や保護者アンケートを実施し、改善点や検討課題を保護者会で共有することを通じて、保護者からの高い支持の獲得を目指す。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
・学校評価の中で保護者アンケートの提出率を 88%以上にする。	・役員会、学年保護者会での意見交換を通して、園の活動への理解を深めるとともに学校評価アンケートへの関心を高め、提出率に繋げる。

【評価指標②】個人面談やグループ面談などの場を設け、子育て支援に努める。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
・子育てに関する情報を共有する。	・個人面談を学期ごとに 1 回実施し、情報共有に努める。

中期計画に掲げる 5 年間の目標と評価指標

IV－5．管理運営

目標

ビジョンの達成に向けて、戦略的かつ機動的な管理運営をおこなう。

主となる委員会・会議 主となる事務局
幼稚園教員会 —

2022 年度 事業計画

【評価指標①】学園の経営課題や共立大日坂幼稚園の課題について教職員一人ひとりが迅速かつ正確に共有し、魅力ある幼稚園づくりに教職員一体となって取り組む。

2022 年度 到達目標	2022 年度 活動概要
・教員の多様な業務について整理し、効率化を図り、教員の業務軽減に繋げる。	・教員の ICT 環境を整備する。 ・幼児教育無償化に伴う業務や消毒清掃作業について明らかにし業務を補う体制について整理する。

V. 共立女子学園

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-1. 財政

目標

堅実な経営基盤を維持・向上させるために必要な財務戦略を立案・実行する。

主となる委員会・会議
財政運営会議

主となる事務局
財務課

2022年度 事業計画

【評価指標①】 マスタープラン達成に必要な資源を確保し、財政的な支援を行う。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 「共立女子学園フューチャーズ募金」の寄付金額5,000万円（内、個人からの寄付金額2,000万円）とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 寄付金趣意書を活用した新たな広報計画に基づき、募金活動を行う。 卒業生団体（以下、櫻友会と称す）と連携し、卒業生への広報を強化する。 募金管理の仕組みを検討し適切な運用を検討する。 募金事務室の今後の在り方について検討する。

【評価指標②】 適切に収入を確保し、必要な支出について検証し、収支均衡を目指した予算を策定する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2023年度予算において収支均衡となる予算を策定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設設備、情報化、広報費等において過年度実績額を踏まえて、支出の適正化を図る。 主要な財務比率の中から目標とする比率を定め、予算化する。
<ul style="list-style-type: none"> 資金運用方針を策定し、方針に見合った債券を運用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運用果実を原資とする支出とその額、特定資産の性格を踏まえ、果実の運用方針を策定する。

【評価指標③】 学園の永続維持を果たすために、基本金組入前当年度収支差額を収入超過にする。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 2022年度決算において、経常収支差額比率で5%のプラスを生み出し、基本金組入前当年度収支差額においても収入超過にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各部門との調整のうえ、支出抑制を図る。 第三期中期計画を見据え、各支出において指標となる目安値を設定する。

【評価指標④】 共立女子第二中学校高等学校の財政状況を踏まえて、収支改善方策を検討する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
<ul style="list-style-type: none"> 新たな奨学金制度及び新コース制開始により入学者数の増加に努め、収支改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな奨学金制度及び新コース制を検証し、財政面を踏まえた改善を検討する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-2. 人事

目標

学園の発展や中期計画の達成のため、教職員がやり甲斐を持ちながら能力を生かし活躍できる人事施策を推進する。

主となる委員会・会議
学園将来基本構想委員会

主となる事務局
総務課

2022年度 事業計画

【評価指標①】教職員が意欲と能力を十分発揮できるよう、財政状況を踏まえた新しい人事・給与制度を導入する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・事務局における人事評価制度の浸透を図る。	・評価者の資質向上を目的とした研修を実施する。 ・法人系の基幹システムにおいて、人事評価、業績評価等の管理項目の内容を充実させ、人事管理情報として活用する。
・2022年度の人事評価結果を2023年度の賞与に反映させる。	・人事評価期間を通年（4月～3月）とし、評価結果を翌年度の処遇に反映させる。
・人材育成方針に基づく人員配置を行う。	・各職員の職務遂行状況を確認し、人事評価と自己申告書を踏まえた人事異動配置を行う。
・事務局における在宅勤務制度を導入する。	・在宅勤務に係る諸規程の整備を行う。

【評価指標②】多様な雇用・就労形態による人材活用、高い専門性を持つ専任職員の採用、働き方改革等、新たな職員の採用を含んだ職員採用計画を策定し、実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2023年度の目標人員を確保する。	・採用計画を作成し、計画に基づいた採用活動を行う。
・職務限定職員制度を定着させる。	・各課、各グループにおいて配属した職務限定職員の業務内容やその効果について検証を行う。 ・職務限定職員のキャリアパスを検討する。

【評価指標③】資質向上と組織力強化のため、全専任教職員を対象としたFD・SD研修会等を実施し、全専任教職員の参加を目指す。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・全専任職員の研修参加を目指す。	・人材育成方針に沿った各階層の体系的な研修を検討・実施する。

【評価指標④】事務局の業務を業務委託の活用も含めて見直し・整理し、事務局組織の最適化を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・事務局組織の業務効率化を一層高める。	・事務局各業務のシステム化およびペーパーレス化を促進する。
・新たに導入する法人系の基幹システムの定着を図る。	・新しい基幹システムで一元管理できるよう業務手順を見直す。

【評価指標⑤】共立女子大学・短期大学の教育課程等を踏まえ、新しい基本教員数を定める。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・基本教員数を適切に管理する。	・学長・副学長の下、教育活動と人件費管理の双方の観点から退職予定教員の補充人事を行う。

【評価指標⑥】共立女子大学・短期大学の学部・科の特性や助手の業務実態を踏まえて、助手の適正人数を定める。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・学長の下、助手の適正人数を定め適切に管理する。	・学長の下、教育活動と人件費管理の双方の観点を踏まえて適正人数を検討し、退職予定助手の補充を適切に行う。

【評価指標⑦】 共立女子第二中学校高等学校の生徒数の減少を踏まえ、カリキュラム編成の見直しに即した教員数にし、共立女子中学高等学校との人事交流を促進する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・生徒数、カリキュラム編成に即した教員数の適正化を図る。	・定年退職者の状況、生徒数、カリキュラム編成等を勘案し、教育の質を低下させることのない教員体制を併設校間で検討する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-3. 施設設備

目標

教育研究の維持向上と学生・生徒・園児の安全を確保するため、計画的に施設設備を整備し、環境整備を図る。

主となる委員会・会議
学園キャンパス整備検討委員会

主となる事務局
財務課、情報システム課

2022年度 事業計画

【評価指標①】 神田一ツ橋キャンパスの施設設備について、長期的視点に立ったグランドデザインを策定する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・2023年3月末までにキャンパスグランドデザインの方向性を定める。	・キャンパスグランドデザイン（素案）に対する意見を精査し、部門間の協議を進める。

【評価指標②】 神田一ツ橋キャンパスの各号館について、中期的視点に立って毎年設備更新計画（情報インフラ含む）を策定し、適切に実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・各種ICT関連のアンケートにおいて無線ネットワーク関連の問題報告件数を「0」に近づける。	・無線ネットワークの活用状況をモニタリングし、アクセスポイント機器の最適な配置を行う。
・学校運営に必要な教育環境整備を適切に行う。	・2022年度の更新計画に基づき、ICT機器及び什器を更新する。ICT機器について、活用状況をモニタリングし、優先順位をつけて整備する。
・二酸化炭素排出量を第三計画期間の基準値（-27%）の範囲内に抑えられるよう設備を更新する。	・外部資金を活用しつつ、長期修繕計画に定める設備更新による省エネ対策を実施する。
・法人系の基幹システム本稼働までの導入スケジュールのとおりに進捗させる。	・人事給与システムは、人件費シミュレーション機能の検証を終える。 ・財務システムは、新システムで2023年度予算の運用を開始する。また、決算処理のテスト検証を行う。

【評価指標③】 八王子キャンパスについて、必要不可欠な施設設備を確認し、今後の施設設備利用計画を策定する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・無線ネットワークにおける不具合発生数を「0」に近づける。	・無線ネットワークのモニタリングを継続して実施し、アクセスポイント機器の適正な配置を検討する。
・八王子キャンパスの整備計画に基づいて、必要となる改修工事を完了する。	・代替施設に必要な設備などを整備して、滞りなく移行が出来るよう、綿密な打ち合わせのもと工事を進める。
・教員向けICT活用度チェックの理解度を90%以上にする。	・教職員におけるICT研修を月に一度実施する。

【評価指標④】 八王子キャンパスの土地の売却処分を推進する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・旧二中高側校地の売却を完了する。	・旧校地を売却後、深井戸などの利用に支障の無いよう、境界確定及び契約を確実に進行する。

【評価指標⑤】 各研修センターについて、今後の利用計画を策定する。特に、軽井沢・河口湖の研修センターについては、利用実態を把握し利用率の向上を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・研修センターの利用状況を踏まえて今後の在り方を定める。	・アンケート結果や利用状況を踏まえて、研修センターの利用計画を検討する。

中期計画に掲げる5年間の目標と評価指標

V-4. 櫻友会・後援会・地域等との連携

目標

櫻友会・後援会・地域等との連携を通じて、各設置校の発展に寄与し、活動を支援する。

主となる委員会・会議 —	主となる事務局 総務課
-----------------	----------------

2022年度 事業計画

【評価指標①】 学園と櫻友会・後援会・地域等との連携方策の点検・評価を行い、組織・運営の充実を図る。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・ 櫻友会との連携を継続し、活動を支援する。	・ 櫻友会と定期的な打合せを実施し、連携事業について意見交換を行う。
・ 地域と連携・協力し、地域の活性化を図る。	・ 神保町町会行事への参加や地域役員と交流を行う。

【評価指標②】 櫻友会との連携により卒業生ニーズを把握し、卒業生の満足度を高める施策を実施する。

2022年度 到達目標	2022年度 活動概要
・ 櫻友会との連携事業案を策定する。	・ 櫻友会と定期的な打合せを実施し、連携事業について意見交換を行う。

2. 2022年度予算の概要

(1) 2022年度予算編成方針

本学園が、学園ビジョン、第二期中期計画を踏まえた諸活動を推進するとともに、強固な財政基盤を再構築していくため、2022年度の予算編成は以下の基本方針に基づき策定する。

<基本方針>

- 当該年度の学園に帰属する収入規模（学生生徒等納付金、寄付金、補助金、資産運用収入他）に応じた適正な支出規模となる収支均衡予算を策定する。
- 事業活動収支において、経常収支差額比率 5%、基本金組入前当年度収支差額を収入超過とする。
- 全ての支出行為の合理性を検証し、支出を抜本的に見直し、経費節減を徹底する。
- 人件費及び施設設備費等の固定費削減等の見直しを図る。

2022年度については第二期中期計画の最終年度であり、期末時点において事業活動収支の経常収支差額比率を5%とすることを目指している。ビジネス学部設置3年目となり、学年推移による資金収入の増加を見込みつつ各支出の抑制に努め、事業活動収支の経常収支差額において、収支均衡（経常収支差額比率0%以上）となる予算を編成した。

以上を踏まえた2022年度予算の概要は次のとおりである。

(2) 資金収支予算（表1）

【収入】 学生生徒等納付金収入は、ビジネス学部設置3年目を踏まえ、前年度予算額より約1億1,000万円増の約88億6,500万円を計上した。また、手数料収入は入学検定料収入等を含め、前年度予算額同額の約2億4,000万円を計上した。補助金収入は前年度予算額より約3,200万円増の約19億1,500万円を計上し、そのうちの経常費補助金については各設置校の予測学生生徒数をもとに過年度の補助金実績額を踏まえて計上しており、それ以外の補助金については、近年の実績額を見込み計上した。

その他、特定資産の取崩収入等を含むその他の収入8億300万円と前年度繰越支払資金約30億5,400万円を加え、収入の部合計を約150億7,600万円として計上した。

【支出】 人件費支出は、退職予定者と採用予定者とを加味して、前年度予算額より約4,000万円減の約64億4,300万円を計上した。それ以外の支出では、経常的な活動に関わる経費の他、中期計画予算、神田本館演習室機器リプレース、神田本館他各所の修繕及び設備更新工事等の実施に伴い、教育研究経費支出は約28億900万円、管理経費支出は約6億8,700万円、施設関係支出は約1億5,500万円、設備関係支出は約1億6,600万円を見込んでいる。

その他、特定資産への繰入支出は15億6,700万円、翌年度繰越支払資金約29億6,300万円を計上した。

(3) 事業活動収支予算（表2）

教育活動収支差額は約3,600万円の支出超過を見込んでいる。教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額では、約6,400万円の収入超過を見込んでおり、経常収支差額比率は0.6%となる。また、特別収支差額は約1,500万円の支出超過を見込んでいる。

以上に予備費1億円を加え、基本金組入前当年度収支差額は約5,100万円の支出超過を見込んでおり、基本金組入額約3億5,200万円を第1号基本金に組み入れ、当年度収支差額は約4億300万円の支出超過を見込んでいる。

(4) 中期計画予算（表3）

第二期中期計画に掲げられた重点施策（マスタープラン）達成のための実行計画（アクションプラン）は、所管する各部署、委員会で計画の適切性、予算および資源の合理性等を検討し、各個別計画予算として計上した。

表 1. 資金収支予算総括表

収入の部

(単位：千円)

科目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
学生生徒等納付金収入	8,865,069	8,755,562	109,507
手数料収入	240,094	240,094	0
寄付金収入	40,100	176,000	△ 135,900
補助金収入	1,914,535	1,882,197	32,338
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	34,515	24,715	9,800
受取利息・配当金収入	102,426	133,259	△ 30,833
雑収入	173,524	248,374	△ 74,850
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,394,245	1,391,795	2,450
その他の収入	802,643	906,501	△ 103,858
資金収入調整勘定	△ 1,545,596	△ 1,818,158	272,562
前年度繰越支払資金	3,054,393	3,592,730	△ 538,337
収入の部合計	15,075,948	15,533,068	△ 457,120

支出の部

科目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
人件費支出	6,442,537	6,482,656	△ 40,119
教育研究経費支出	2,809,031	2,698,162	110,869
管理経費支出	686,689	757,762	△ 71,072
借入金等利息支出	1,667	4,093	△ 2,427
借入金等返済支出	83,330	83,330	0
施設関係支出	154,730	104,200	50,530
設備関係支出	165,940	355,127	△ 189,187
資産運用支出	1,567,000	1,856,230	△ 289,230
その他の支出	223,897	242,947	△ 19,050
[予備費]	100,000	100,000	0
資金支出調整勘定	△ 122,300	△ 205,831	83,531
翌年度繰越支払資金	2,963,428	3,054,393	△ 90,965
支出の部合計	15,075,948	15,533,068	△ 457,120

※2022年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

表 2. 事業活動収支予算総括表

(単位：千円)

教育活動収支	収入の活動	科 目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
		学生生徒等納付金	8,865,069	8,755,562	109,507
		手数料	240,094	240,094	0
		寄付金	40,100	132,100	△ 92,000
		経常費等補助金	1,914,535	1,848,871	65,664
		付随事業収入	34,515	24,715	9,800
		雑収入	173,524	248,374	△ 74,850
		教育活動収入計	11,267,837	11,249,716	18,121
	支出の活動	科 目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
		人件費	6,664,109	6,469,228	194,881
		教育研究経費	3,926,711	3,938,162	△ 11,451
		管理経費	713,423	790,762	△ 77,338
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	11,304,244	11,198,152	106,092
教育活動収支差額		△ 36,406	51,564	△ 87,971	
教育活動外収支	収入の活動	科 目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
		受取利息・配当金	102,426	133,259	△ 30,833
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	102,426	133,259	△ 30,833
	支出の活動	科 目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
		借入金等利息	1,667	4,093	△ 2,427
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	1,667	4,093	△ 2,427
	教育活動外収支差額		100,759	129,166	△ 28,406
	経常収支差額		64,353	180,730	△ 116,377
特別収支	収入の活動	科 目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	5,500	83,426	△ 77,926
		特別収入計	5,500	83,426	△ 77,926
	支出の活動	科 目	2022年度当初予算	2021年度第2回補正予算	増減
		資産処分差額	20,400	24,840	△ 4,440
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	20,400	24,840	△ 4,440
特別収支差額		△ 14,900	58,586	△ 73,486	
〔 予備費 〕		100,000	100,000	0	
基本金組入前当年度収支差額		△ 50,547	139,316	△ 189,863	
基本金組入額合計		△ 352,122	△ 325,109	△ 27,013	
当年度収支差額		△ 402,669	△ 185,793	△ 216,876	
前年度繰越収支差額		△ 5,316,089	△ 5,130,295	△ 185,793	
基本金取崩額		0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△ 5,718,758	△ 5,316,089	△ 402,669	
(参考)					
事業活動収入計		11,375,763	11,466,401	△ 90,638	
事業活動支出計		11,426,310	11,327,085	99,225	

※2022年3月時点のものであり、その後補正によって変更が生じる場合がある。

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

表 3. 中期計画予算

(単位：千円)

部門等	予算配分項目		事業内容	予算額
大学・短期大学	I-1.	学生確保	志願者数・受験者数増加へ向けたオープンキャンパスの充実	1,000
			志願者数・受験者数増加へ向けた広報活動の充実	500
	I-2.	教育の質	国際学部GSEプログラム充実のためのTOEIC Writing試験の導入	450
			課題解決型アクティブラーニング授業の充実	3,497
	I-4.	学修支援・授業支援	授業支援体制充実のための授業相談ツール導入	1,320
	I-5.	就業力	SPI対策講座及び模擬試験実施等による就職支援の充実	3,060
			自己理解支援ツールによるキャリア支援の充実	9,722
卒業生に対するアンケート調査の実施			1,626	
中学高等学校	II-2.	教育の質	英語ライティング、スピーキング指導の充実	88
			アクティブラーニング教育の支援充実	77
			各教科指導力の向上、教員ルブリック研修の実施	330
			企業インターンの充実	604
			総合的な探究活動の充実	2,000
第二中学高等学校	III-2.	教育の質	英語教育充実のための教員研修の実施	360
			英語教育充実のためのMLSドラマメソッドの充実	870
学園	V-1.	財政	募金活動の充実	3,997
	V-2.	人事	新人事・給与制度の構築	4,000
			事務組織改編のための従業員満足度調査の実施	1,500
V-3.	施設設備	法人系システムの再構築	65,000	
総計				100,000

※単位を千円未満四捨五入としているため合計額と一致しない場合がある。

女性の自立と自活
共立女子学園



学校法人 **共立女子学園**

KYORITSU WOMEN'S EDUCATIONAL INSTITUTION

〒101-8437

東京都千代田区一ツ橋 2-2-1